



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学 生
ぐ
ツ ム

第60号

2017年8月26日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.39

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

シニアSPからみた「わく算」



この日も多くのシニアSPさんが来てくれました。自分は、シニアSPさんが来てくれると、必ず聞くことがあります。

「現場に出て、かたはSPでの活動は、役にたっていると実感することがあるか？」

「SPのとくと、現場に出たときで、子どもの見方や感じ方に違いはあるか？」

の二つです。

東浦のこの事業も5年目となり、どんどんSP経験者が現場に出て行きます。現場では待たなしで子どもへの指導が始まります。じっくり、ゆっくり考える・研修を積む、そんな時間は正直ありません。現場に出る前に、大学生のうちに「どこまで現場感覚を積み、現場に出たときの心の準備をし、対応力を磨いておくか」。大学生のうちに学んでおけば、正直、即戦力ですし、学ばなければ正直「お荷物」になってしまいます。そして、指導がしっかりできない先生が世に出たときに、迷惑をこうむるのは子どもなので、とても微妙な感覚になります。大学生のうちに力量をしっかり付けられれば、その人も、そ

してその人に教えてもらう子どもも幸せになるのです。

話がそれましたが、上記の質問をシニアSPにすると、必ず返ってくる言葉があります。

「かたはSPで学んだことは、すごく役立っています」「子どもとの距離感の取り方を事前に学べたので、ゆとりをもって子どもと接することができています」。これらの話は、ぜひ、シニアSPに直接聞いてあげてほしいです。生の声が返ってきます。最高の笑顔とともに。これを聞くと、このSP活動は、本当に尊い活動だと再認識します。初任研以上のことを、学生のうちから学ばせている（彼らが勝手に学んでいる）のですから。

この日、シニアSPの森岡さんは言いました。「4か月前まで、ここでSPをやっていたんだ…。そのことを思い出し、元気をもらいました。2学期から、またがんばれます！」SP活動は、その人の「心のガソリン」になっています。